



平成 19 年 2 月

発行・編集：中越震災復興プランニングエイド

## 今年も冬の交流体験が行われました！

2月11日(日)～12日(月)で、冬の交流体験ツアーが行われました。今回は、「小金井プレイパークをつくる会」の2歳児から高校生、大人まで多彩な世代の方々がお見えになりました。暖冬のおかげで例年より積雪が少なく、雪景色や雪遊びなどを楽しみにしていただいている中、どうなるかと心配していましたが、この週末は雪が降り積もり、無事、お客様のご期待に応えることができました。



### [1日目]

午後3時過ぎに21名の参加者が貸し切りバスで法末に乗って到着。荷物を置いて、すぐにかんじきをはいて、釜峰散策に出発しました。頂上ではかなり風が強く吹いていましたが、雪合戦をしたり、雪だるまをつくったり、足跡のない雪面に倒れて人形(ひとがた)をつけてみたり…。寒い中かなり長い時間を遊びました。



やまびこに戻り、今度はキャンプ場からやまびこに通じる道路でソリ遊びに！雪が少なかったため田んぼでのそり遊びはできませんでしたが、代わりにゆるやかにカーブするアスファルトの道路に雪がのったところでのそりは、スピードが出て大人も含めて楽しんでいました。

一方、やまびこの校庭では、女子高生達を中心となってかまくらづくり。人も入れるぐらいの大きなものができました。

午後6時からの夕食では、子ども達の食欲が炸裂。たっぷり遊んだ後での、集落の美味しい食事はほぼ完食。おかわりも底をついていました。

その後は、かまくらや雪だるまに点灯するため、ろうそくを手にやまびこ校庭へ。火の灯ったかまくらはとても幻想的でした。



そして、冷えた体でやまびこに戻ると、食堂にある囲炉裏を囲んでこせんべい焼き！お持ちを小さく切ったものを鋳物の型に入れて、炭にかざすと、大黒天や弁天さまができあがり。やけどしないように注意しながら、子ども達がかわりばんこに焼いて大喜びしていました。あんなに夕食を食べたのに、顔に色をつける間もなく、次々と胃袋へと消えていきました。



その後お風呂に入り、就寝に。女子高生4人にはへんなカフェでの宿泊を体験してもらいました。1階の居間で、ふとんに包まりながら、頭を寄せ合い・お菓子を食べながらおしゃべり。とても楽しそうでしたよ！

## [2日目]

午前8時20分から朝ご飯。今朝も食欲満点で、炊飯釜は底がついていました。子ども達の食欲をなめちゃいけませんね。



朝から雪が降り続いていた2日目は、やまびこの食堂でちまきづくりをするグループと、へんなカフェで竹そりづくりをするグループに分かれました。

ちまきづくりは集落のお母さんが先生となって、先生を質問攻めにしながらつくっていました。女の子達が中心となって、たくさんのちまきが出来上がりました。



竹そりづくりはエイドの男性陣やお父さんたちを中心に、竹を割ったり組み立てたりしながら完成させていました。その周りでは初めてへんなカフェに来た子供たちが、1階2階を走り回ったり、お茶を飲んだりしながら遊んでいました。こういうおうちも新鮮だったのでしょう。完成した竹そりはへんなカフェのお庭の斜面を使って滑って遊びました。ものすごく立派な竹そりが出来ていました。

一方で、ちまきづくりなどを室内でしていた子ども達は、途中から雪が気になってソワソワ。雪が降り続く中、外に出て行って雪合戦や、雪すべりなどをしに出かけていました。こんなにたくさんの遊び場があるのに、部屋の中だけなんて、子ども達には我慢できなかったようです。

遊びに夢中で時間を忘れ、30分遅れての昼食。みんなで作ったちまきも茹であがり、1つずつ

試食をしました。

帰り支度をする時間になっても、「もうちょっと遊びたい」という子ども達は、雪遊びをしたり、体育館でかけまわったり、ぎりぎりまで頑張っていました。その後、かなり名残惜しそうでしたが、14時半に法末を出発。皆さんに楽しんでいただけたでしょうか？（後日談：14時半に出発したバスは、渋滞により小金井に夜10:00に着いたそうです。お疲れ様でした。）



[「小金井プレイパークをつくる会」田頭さんより]

今回は2歳児から高校生まで子ども14人、大人7人でお世話になりました。

初めは高校生の若者たちに、スキーやスノーボードでない雪国の暮らしを味わって欲しいと思っていました。しかし今年は一度も東京に雪は降らず、「雪遊びした～い！」という子どもや大人も大勢参加しました。

子どもたちは念願のかまくらを作り、暗くなってからの「雪蛭」は、かんじきで登った山登りや景色とともに、一生忘れられない経験でしょう。

雪遊びや交流を通し、参加者の心には遊んで楽しかっただけではなく、何か深いものが残ったように思います。

集落の皆様には、今回も大変お世話になりました。囲炉裏にたっぷり炭を熾してくださり、明治時代のものという鉄型で焼くお餅せんべい。昔の話を伺いながら、丁寧にやけどをしないように皆真剣な表情で作っていました。こんな手間隙かけた準備を、子どもたちが喜ぶようにとさせていただきます、本当にありがたいです。都会っ子の高校生の娘のお友達やご家庭からも、なかなか出来ない貴重な経験をさせていただいたと喜ばれました。

私もあれからフキノトウにはまって、天ぷら、胡麻和えを何度も作りました。小金井にもあるという、うわずみ桜も是非ゲットしたいです！これから四季折々に訪れる機会を持ち、法末が皆の心の古里になったらうれしいです。

## へんなカフェで、たくさんの交流が行われています。みなさんもぜひ！

(大和田記)

「へんなカフェ」のご紹介

中越プランニングエイド(PA)では、法末集落の皆さんのご理解のもと、集落センターを拠点として活動してきましたが、集落内の民家をお借りして、昨年11月より新たな活動拠点を設けました。名付けて「へんなカフェ」。この地方の囲炉裏を意味する「へんなか」と「カフェ」を結びつけて名付けました(命名:宮田さん)。訪れる皆さんが共に出会い、昔の思い出や、個々の思い、夢を語り、創造の輪を広げる「むらの縁側」を目指しています。

オープン後すぐに積雪となったため、集落の方々にお出でいただくというより、こちらのほうがお邪魔することのほうが多いのですが、上映会や星空観望会を開くなど少しずつお出でいただく機会も設けています。また来訪者の宿舎としても利用させていただいており、PA以外でも延べ50人ものの方々にお泊まりいただいています。また集落の方々からたくさんの差し入れをいただいています。

なお平日は長岡造形大の筑波さんの他学生(西澤くんほか)、PAの大和田が滞在し、土日はPAのメンバーが滞在していることが多いです。

初秋のカフェ



冬のカフェ



これまでの活動の様子

<p><b>オープニング</b></p> <p>「へんなカフェ」オープニングの会を開催。集落の皆さん40人（ほとんど）以上お出でいただきました。当日は紅茶とPAが集落の皆さんの協力で栽培したそばを使った「そばクレープ」(フランス仕込み?)を召し上がっていただきました。夜は差し入れのお漬物をつまみにお酒で盛り上がりました。</p>	<p><b>民家再生実験</b></p> <p>お借りしている民家は、空き家状態だったのですが、造形大の学生、駒沢女子大の学生のプロジェクト(?)により、隙間塞ぎ、障子の張り替え、修復などをしていただいております。</p>
<p><b>へんな'かい</b></p> <p>集落の方々にお寄りいただく機会として実施しています。</p> <p>第1回 集落の方々と造形大の学生との懇談</p> <p>第2回 ビデオ鑑賞会「阿弥陀堂だより」</p>  <p>ビデオ鑑賞会</p>	<p><b>星空観望会</b></p> <p>集落が所有し、今まで眠っていた望遠鏡を使って月や土星を見ていただいています。</p> <p>星空観望会</p>  <p>望遠鏡で撮影した月</p>

現在進行中のプロジェクト「へんなカフェ」を拠点に、今以下のようなプロジェクトが進行しています。

<p><b>集落再生計画の策定</b></p> <p>PA、UIFA JAPON（国際女性建築家会議日本支部）が支援し、集落の皆さんによる「たっしゃら会」で策定しています。</p>
<p><b>造形大生による「灯り」プロジェクト</b></p> <p>造形大の学生による竹を使った「雪灯路」、六角形（八角形もある）の田植えの型押しを使い、集落の屋号を浮かせさせた照明も作成しています。</p>
<p><b>PA、造形大コラボによるかぐら南蛮商品化プロジェクト</b></p> <p>PAの須永氏を中心に集落特産のかぐら南蛮（辛いピーマン）をペースト状にしたものを開発。造形大の学生にはロゴマークのデザインを学内で公募していただいています。</p>
<p><b>交流活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初釜お茶会 UIFAの皆さんが主体となり、恒例となりつつある「初釜茶会」を開催しました。1月14日に復興祈念の和と輪を拡げ、「いつまでも住み続ける法末地区を目指して」と題し、森長岡市長にもお出でいただきました。お茶会は4回目なのですが、集落の皆さんも楽しみしていて、集落に「根づく」勢いです。</li> <li>・新年会 今年最初の「たっしゃら会」に合わせ集落の方々とPA、造形大総勢60人以上で開催しました</li> </ul>

初釜茶会の様子



「灯り」プロジェクト 雪灯路



照明



編集後記

暖かいまま冬を終え、このまま春になりそうな気配ですね。冬は冬でステキですが、やはり春が楽しみです。

編集担当：武内